

“日本を代表するコラボが実現！”

福岡ソフトバンクホークス コラボモデル 岡山県「井原デニム」トートバッグ TOKYO MXモールで取り扱い開始！

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX）では、自社通販サイト「TOKYO MXモール」（<http://shop.mxtv.jp/>）で、プロ野球2017年シーズン日本一に輝いた福岡ソフトバンクホークスとコラボレーションしたオリジナルカラーの“国産デニム”トートバッグを2月26日（月）より、TOKYO MXモール限定で発売を開始します。国産デニム発祥といわれる「井原デニム」を使用した、まさに“日本を代表する”バッグです。ホークスファンはもちろん、デニムファンも注目です！！



「Ancours ToteBag（ホークスコラボA）」

20,520円（税込）

白・黒・黄の3色でホークスカラーをイメージしたファン必携のバッグ！正面センターにホワイトデニム、サイド・背面・底面・持ち手にはブラックデニムを使用。内装などに黄色を使うことでアクセントを出しています。サイドに白いチームロゴをあしらひ、ファンアピールも十分！



「Ancours ToteBag（ホークスコラボB）」

20,520円（税込）

白とピンクのタカガールにオススメバッグ！全体をホワイトデニムで覆い、ピンクの内装やテーピングで、可愛らしさを演出しました。底面にブラックデニムを使うことで汚れを気にせず、アクティブにお使いいただけます。サイドのチームロゴは黒、さりげないアピールが可能です！

【商品詳細】

世界が認めたデニムの産地、岡山県井原市で織られた「井原デニム」を表地全体に贅沢に使用した、ワンアクションタイプのトートバッグ。

しっかりとした高品質なデニムを、生地の状態

ではなく、加工により柔らかく仕上げています。

この仕上げによりノリが抜け軽さが出ています。

前面のポケットは両サイドでサイズを変えてあるため、サイズ別で物を収納することが可能です。

口元をバックルで止めることにより、ワンアクションでメイン収納部にアクセスできます。

内側には2つに仕切られたポケットと、ホック式のポケットが付いているので中身の整理も楽々。

また、内側のバックルを止めることで、鞆の表情を変えることもできます。

容量も十分で、試合観戦時のグッズや持ち物もしっかり収納できます。

<サイズ>

幅355×高さ290×マチ200（mm）

※本体サイズ

<生地>

selvage denim（セルビッチデニム）

13oz/ナイロン

<製造>

日本（岡山県井原市）

<メーカー>

StudioM（ブランド名：Ancours）

※備中織物構造改善工業組合員

●「井原デニム」ブランド

備中織物構造改善工業組合員企業が、井原市内で織布したデニム生地を使用し、井原デニム審議会の審査に合格し、「井原デニム」地域ブランド製品認定証を取得したデニム製品。
※「井原デニム」は、井原商工会議所が2017年10月31日付で特許庁に地域団体商標として申請しています。



●井原デニムについて

戦国時代末期頃、綿作り（綿花栽培）が井原地方に伝わり、江戸時代に藍の栽培から染料を作り綿糸を染色して織った厚地の綿布が井原の特産品として全国に広まりました。

明治34年（1901年）から、小倉という種類の布地「備中小倉織（備中小倉）」の生産が始まり、学生服や作業着向けに人気となり、大正時代からは多くの国に輸出されました。

このうち、「裏白」と呼ばれていた厚地の布地が、藍で染められた紺の表地、裏面が白の綿織物で、作業着に向く丈夫な生地であるという点が、アメリカで「デニム」と呼ばれていた布地とまさに同様のもので、これが国産デニムのルーツといわれています。現在の井原デニムは、昔ながらのシャトル織機で織るセルビッチデニムをはじめ、ジャガードなどの柄物、染料や原料にこだわったもの、様々な生地の組み合わせなど、デニムの無限の可能性を創造し続けています。ローテーションで織り上げることによるざっくりとした風合いと染色、ジャガードで微妙な色を再現できる高度な技術は世界からも注目され、今もなお世界各国に輸出されています。

●福岡ソフトバンクホークス

2017年シーズン日本一を奪還、名実共に日本を代表するプロ野球チーム。
球団創設80周年を迎えるアニバーサリーイヤーとなる2018年シーズンも、工藤監督指揮の下、また1から、一致団結して、日本一を目指します！
TOKYO MXでは2018年シーズンも試合中継を放送予定。



「TOKYO MXモール」では今後もTOKYO MXらしい商品の開発、新しいライフスタイルの提案、店舗と連動したイベント等、新しい企画を実施していく予定です。

TOKYO MXでは、当社ならではのブランドを構築し、当社の新しいビジネスモデルを創り、推進してまいります。



TOKYO MX モール
<http://shop.mxtv.jp/>

